

門司港地区



下関から門司へ

アールデコ調の飾りに大正モダンを感じる『旧門司三井倶楽部』

大正10年に三井物産門司支店の社交倶楽部として門司区谷町に完成。昭和24～62年までは旧国鉄の所有となり、「門鉄会館」として利用されていました。建物は木造2階建てでアールデコ調のモダンなデザインが見られるなど大正ロマンの香りを今に伝える建物として貴重なものです。今や門司出身の女流作家「林芙美子の記念室」となっています。

<http://www.mitsui-club.com/history.html>



八角形の塔屋が美しいモダン建築『旧大阪商船門司支店』

明治8年、門司港は横浜・神戸-上海間定期航路の就航時代。ここに大阪商船株式会社が進出し、外国へ胸躍らせて旅立つ人々で賑わっていました。「旧大阪商船」は大正初期に建てられた大阪商船門司支店を修復したものです。オレンジ色タイルと白い石の帯が調和した外観と八角形の塔屋が美しい。

<https://fkaidofudo.exblog.jp/23940342/>



超近代タワーの『門司港レトロ展望室』

門司港レトロはもちろん、関門橋や対岸の下関市、日本海まで見渡せる展望室。徐々に陽が沈み、空が赤く染まる夕景は息をのむ美しさで、そこから夜になればライトアップしたロマンチックな景色に変わる。特冬季の門司港の街並みはイルミネーションでロマンチックに輝く。黒川紀章氏が設計したマンションの最上階にある展望ルームです。

<http://www.gururich-kitag.com/search/category/detail.php?id=135>



茶と白のタイルのコントラストが美しい。『国際友好記念図書館』

中国の大連市と門司港は国際航路で結ばれ交流が盛んでした。そして、昭和54年に両市は友好都市を締結し更なる交流を深めてきました。この図書館はその友好都市締結15周年を記念し、大連市の「東清鉄道汽船事務所」を、そっくり複製し建てられたものです。外壁は茶と白のタイルのコントラストが美しく、煙突や屋根に取り付けた窓などのデザインも印象的

<http://www.mojiko.info/spot/kokusai.html>



モダンデザインの定番『旧門司税関』

門司税関発足を機に、明治45年に建設された税関庁舎。昭和初期まで税関庁舎として使用されていました。近代的なデザインとモダンなネオルネッサンス調が交わり非常に奥深い建物です。ライトアップされた旧門司税関と木々のイルミネーションが揺れる美しい水面が魅力です。門司港のイルミネーションとともに、オルガンの音色も格別です。http://www.mojiko.info/3kanko/spot_zeikan.html



電信電話の歴史を伝える館『NTT門司電気通信レトロ館』

大正 13 年に建築された、門司における最初の鉄筋コンクリート建造物。放物線アーチと垂直線を基調とし、天井が非常に高く、洗練された大正モダンの姿を今に伝えている。今は、明治から現代までの電信・電話機を展示した博物館。明治 33 年に東京・京橋に完成された日本初の公衆電話ボックスの復刻版。灯台をモデルにしたデザインで、港町らしいレトロな雰囲気を漂わせている。

<http://www.gururich-kitaq.com/search/category/detail.php?id=195>



白壁の和風建築の『岩田家住宅』

岩田家は明治32年から門司港地区で酒類販売を行っていました。住宅は大正10年上棟の木造2階建。この建物は"旧岩田商店"もしくは、"旧岩田家住宅"と呼ばれています。交差点の角にあり、大変目立つ建物ですが、白壁の和風建築に煉瓦の塀がセットになっているのが特徴的です。

<http://blog.livedoor.jp/moonchild4-machi/archives/37157016.html>



ヨーロッパ風の白い壁『ホームリンガー商会』

旧大阪商船の斜め横にあるホームリンガー商会。戦後の築らしいですが、ヨーロッパ風の白い外観が爽やかな印象を与えます。長崎でE・ホームとF・リンガーが設立した英国・スコットランド系の会社で、現在も船舶貨物に関する検査や海上保険のロイド船級協会の代理店です。鉄筋コンクリート造り、2階建。

<https://gipsypapa.exblog.jp/9737666/>



アールデコ調のデザイン『旧大連航路上屋・松永文庫』

定期航路を結んでいた中国・大連をはじめ、世界各国と密に交流をしていた門司港。1929年に国際旅客ターミナルとして建てられたのが、ここ「旧大連航路上屋」です。幾何学模様を取り入れたアールデコ調のデザインが、当時の門司港の華やかさを物語ります。映画の資料を展示する「松永文庫」があり、文化発信拠点として親しまれています。

<http://www.gururich-kitaq.com/kanmon/detail/index.php?id=27&app=0>



アメリカ式高層オフィスビル『旧 JR 九州本社ビル』

このしっかりしたレトロビル、昭和 12 年三井物産の門司支店として建てられた鉄筋コンクリート造 6 階建物。当時は最先端の高層オフィスビルです。その後国鉄に買収され、民営化後はしばらく J R 九州の北九州本社だったそうです。規則正しく並んだ窓に、入り口は正面ではなく、アンシンメトリーに右寄り、そして彫刻の施された黒い石。一見シンプルですが、見れば見るほど味のあるビルです。

<http://www.mojiko.info/spot/jroffice.html>



昭和のアメリカ式オフィスビル『門司郵船ビル（日本郵船門司支店）』

昭和 2 年、船会社の日本郵船門司支店として建設。当時は入出港する客船の乗降手続きの事務所でした。改修により外観はかつての装飾性を失いましたが、玄関ホールのもザイクタイル、階段の手すりや照明などから、当時の面影を感じることができます。当時の最新設備、エレベーターを初めて見る市民が長蛇の列を作ったというエピソードも。

<http://www.gururich-kitaq.com/kanmon/detail/index.php?id=16&app=0>



明治の赤煉瓦づくりの建物『九州鉄道記念館』

明治24年に建てられた赤レンガ造りの歴史ある建物、旧・九州鉄道本社。門司港地区最古の歴史的建造物です。内部は半分を吹き抜けの構造で、レンガのレトロな雰囲気損なわない構成です。その本館は鉄道博物館。蒸気機関車や人気列車の実物展示、実物資料等、触れて楽しめる展示物がぎっしり。

<http://www.gururich-kitaq.com/search/category/detail.php...>



明治モダンの足跡『門司港駅』

九州鉄道の起点として明治24年に開業した門司駅の2代目駅舎。この建物はネオ・ルネッサンス調の木造建築です。当時の駅のモダンさを知るにはトイレを覗いて見ると分かります。青銅製の手水鉢や水洗式トイレ、大理石とタイルばりの洗面所、御影石の男性用小便器などはとても重厚でモダンな作りです。あいにく今は工事中。完成は2019年度とか。

<https://travel.watch.impress.co.jp/docs/news/1050985.html>

